

【丸子文化会館セレスホール（第8回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月23日（水曜日） 19:00～20:35
2 会 場	丸子文化会館セレスホール 小ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ●千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長 ●東信観光バス株式会社 篠原営業部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角 藤澤係長、田中主事
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）
2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）
3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）
4 交通事業者の現状について（千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長）
5 質疑応答
●参加者 ・鹿教湯線の20時台の便は上田駅で飲んだ際、自宅までの帰りに使っていた。 ・また、市役所職員や高校生の利用も多かった。 ・20時台の便は本当にありがたかったので是非復活していただきたい。 ・運賃低減バスを12年間運行したとのことだが、どのような効果があったのか。 ・丸子地域デマンド交通について、内村地区が運行エリアに入っていないうえ、大屋駅へ乗り入れている。 ・デマンド交通の見直しも随時行っていただきたい。
⇒○上田市 交通政策課 横沢課長
・3月27日に上田高校文化班が作成した作品を路線バスに設置するというギャラリーバスを実施した。 ・その際にバスを利用する高校生を含めて座談会を実施した。 ・Wi-Fiの設置などの意見を予想していたが、一番多い意見は20時台のバス復活であった。 ・そういった意見を千曲バスも聞いており、運転手の充足が大前提とはなるが、市としてもお願いしていきたいと考えている。 ・運賃低減バスの効果については、配布資料のスライド番号37ページに効果を3つ、課題を2つ記載させていただいた。 ・効果については、利用者数の増加であり、特に導入して2年目に1番効果があった。 ・しかし、その後は横ばいで推移し、コロナ禍で減少することとなった。 ・公共交通の専門家の言葉を借りると、安価な運賃は短期的には効果があるが、長期的には社会的不便益を招くというようなこともあり、今回見直しをさせていただいた。

- ・利用者の負担軽減等の方向性については、通学費の負担軽減になったというご意見もいただいているため、通学定期額は据え置きとする。
- ・また、運賃の確認に関わる負担軽減ということで、運賃が 50 円単位となったことで、運転手の運賃確認作業が楽になったということもあった。
- ・今後はゾーン制で運賃が 100 円単位になるため、さらに確認が容易になると考えている。

⇒○上田市 丸子地域建設課 藤澤係長

- ・丸子地域デマンド交通は丸子地域循環バスの利用者数減少を受け、それに代わる形で導入された経緯がある。
- ・そのため、循環バスが運行していなかった内村地区はデマンド交通も運行していない。
- ・大屋駅への乗り入れ等、デマンド交通のエリアを広げるとなると、タクシーやバス事業に大きく影響を与えることとなるため、十分な協議が必要となってくる。

⇒●参加者

- ・バスの運転手は運転以外にも料金の確認などを行う必要がある。
- ・自動運転は難しいとしても、そういったところの自動化を進めた方がいいのではないかな。
- ・カスハラについてもうまく対応していただければ、運転手になる人や続ける人が増えるのではないかと感じた。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・料金の確認については、既に運賃精算機があるため、運転手がお金に触るような作業は発生していない。
- ・カスハラについて、当社においては運転手より運行管理や事務所側に多い状況である。
- ・道路状況によるバスの遅延に関して厳しいお言葉を毎日のようにいただいている。
- ・このような中で、運行管理者側からカスハラ対応用のマニュアルを作成してほしいという声が上がっている。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・市としてもマニュアル作成なども含めて、支援を行っている。
- ・できる限りバス事業者の負担が軽減され、本業に集中していただけるよう努めていきたい。

●参加者

- ・息子が鹿教湯線を利用しているが、渋滞などによってバス停に記載された時間から 30 分以上遅れてバスが来ることがたまにある。
- ・通勤にバスを利用しているため、30 分の遅延となると始業に間に合わない。
- ・また、バスが揺れ体調が悪くなった時があった。
- ・そういったところも改善していかなければ、良質なバスの運行という形にはなっていないのではないかな。
- ・質的な向上もお願いしたい。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・遅延したバス停について教えていただきたい。また、上田駅から向かう便か。

⇒●参加者

- ・下和子の農協前であり、上田駅から向かう便である。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・下秋和車庫から出る便の場合、渋滞等の影響があり遅れてしまう。

- ・交通渋滞についてはどうしても発生してしまうため、どうやればなくなるのか教えていただきたいくらいである。

⇒●参加者

- ・10分程度の遅延であればわかるが、30分はどうか。
- ・バスの運行時間の設定を簡単にやっているのではないかと。多少の遅れを加味した運行時間を設定できないのか。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・道路の待機所の問題もあり、道路管理者にもバスの時間調整ができるスペースを設けてもらうことも必要だと思う。
- ・渋滞も加味した中で運行時刻の設定をしているが、雪や雨、また交通事故といった場合のケースは防ぎようがない。
- ・下秋和車庫から当該停留所までは距離もあり、3分の信号に10回引っかかるだけでも30分の遅延となってしまう、バス事業者のみで解決することはできない。

⇒●参加者

- ・先週、30分遅れるという事態が発生した。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・バス事業者も時刻表を守ろうという形で運行努力をしているというところは、利用者も理解していると思う。
- ・質の問題については、上田市ではTicketQRというキャッシュレス決済システムを路線バスへ導入しており、アプリ上でバスの位置情報を確認することができる。
- ・バスを利用するにあたっては、バス停での待合が必要となってくるが、待ち時間を調整することも可能になってきているため、是非ご活用いただければと思う。
- ・バスの揺れについては、路線バスの赤字の影響で、車両更新になかなか行き届かないことも事実である。
- ・昨今ではEVバスを導入している自治体もある。EVバスは車内の音が静かであるため、すぐにすべてが入れ替わるというわけではないが、導入に向けて検討を行っていききたい。

●参加者

- ・私は普段からバスを利用しているわけではなく、今日も車で来た。
- ・個人的に公共交通がしっかり整備され、弱いものや若年層の交通圏が確保されるべきだと考えており、関心をもって本日参加した。
- ・説明ではテクニカルな話をお伺いし、よく研究しているなど感じたが、残念ながら利用者の視点からこの値段ならここまでバスで行くが、それ以上の運賃なら自動車で行くといったような検討はされていなかったようであり、事業者側からの視点での計画になっていた。
- ・今回の説明の趣旨としてはいずれ値上げをするからちゃんと受け止めてという話と認識した。
- ・値上げした際に、先ほどの乗り心地や遅延のことも踏まえると、無理にでも車を購入して乗り換える人が増えると考えており、本事業は机上の空論になっていると思う。
- ・また、市側の出席者の顔ぶれもいかがか。交通政策の問題で事業に関わる人だけでなく、上田市全体の大きなプランの中での話であるため、もっといろいろなセクションが集まって大きなシンポジウムを開催し、話し合いをしなければならない。
- ・この程度の話し合いで、やったことにしてよいのか。
- ・路線バスをすべて無料化、公営化するということも含めて、上田市が公共交通をこれからどうしてい

くのかというところで、今の形を維持していくだけで本当にいいと考えているのか教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・本計画が完璧なものであるとは我々も考えていない。
- ・計画策定の発端となったのは昨年4月の減便であり、この減便は利用者の減少ではなく、事業者側の運転手不足という理由で行わなければならなかったものである。
- ・運賃低減バスという形で利用者目線の政策を展開してきた中ではあるが、こういったことを考えると、事業者側の事情も汲まなければ今後バスが存続できないということも事実である。
- ・一方が欠けるということではないが、両方をにらみながらまずはできることからやっていくということで計画を説明したところである。
- ・公共交通の維持確保が我々の仕事であるため、今後ご意見もいただきながらより良いものにしていきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・説明の最後のスライドに「ご理解、ご協力をお願いします」という記載があった。
- ・私を含め、ここにいる方もそうだと思うが、協力を求められても疑問である。
- ・ご協力をお願いしますといわれ、ここにいるものが受けとった形となり、市民の理解が得られたという形になってしまうのは一番怖い。
- ・市民としては路線バスの値段が上がるのは理解できないと思う。理解できなかつたら乗るのをやめるだけとなる。
- ・今回の会では協力、理解はしない者もいるということを受け止めていただきたい。
- ・意見としては今回の計画はバーチャル的なものである。
- ・長期的なプランを考えることが交通政策課の責任という気がする。
- ・道路環境の整備も交通政策の1つだと思う。バスが混雑するのならバスの専用路線を作るということもやろうと思えばできるという認識でよいか。権限はなくても提案を出すことは可能なのではないか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・それぞれの道路管理者の判断もあるかと思う。
- ・当然要望することは可能である。

⇒●参加者

- ・市には市民への協力をお願いするのではなく、国や県などと交渉していただきたい。
- ・混雑する道路があれば、バス専用路線を作るということを考えていただきたいと思う。
- ・公共交通はしっかり定時で運行する体制をどう作っていくかが大きなテーマだと思うため、そこを進めていただきたい。
- ・やっていただけないのであれば、協力、理解はお断りする。

⇒○上田市 佐藤都市建設部長

- ・路線バスは年間100万人の移動を支えており、なくなった場合、自動車など他の交通手段で代替することは現実的に難しい。
- ・そういう意味でも維持確保を確実にやっていかなければ、市自体が成り立たない事態となりえる。
- ・バスの定時性確保のため、道路改良を行うということも部分的には必要だと考えている。
- ・丸子地域では国道254号線について、住宅が密集している場所を大型車両が通行することがないように、県がバイパスを建設している。
- ・また、大きな課題としては大屋駅周辺の渋滞があるが、国が国道18号へバイパスを建設し、18号及

び大屋駅の渋滞を緩和させるという計画を立て、時間はかかっているが、将来に向け実施していくところである。

- ・道路を便利にすると公共交通でなく自家用車を利用してしまうという面もあるため、全体的なことを見通しながら取り組みを進めている。
- ・計画策定にあたっては国とも1年以上協議を重ねており、もちろん市内部の福祉部門等とも情報共有を図りながら進めてきたものである。
- ・ここで説明して、ご理解をいただいて終了ではなく、本計画がすべてではないため、ご意見をいただきながら改善を行い、10月にはスタートしていきたい。
- ・本計画は5年間のものであるため、今後の方針についてもすぐに考えていく必要がある。
- ・いただいたご意見のすべてを実現するとは簡単には言えないが、しっかり取組を進めていきたい。

⇒●参加者

- ・また機会があればトータルな未来の話を聞かせていただきたい。

●参加者

- ・まだ車を運転しているが、飲みに行く際などに年間10回ほど鹿教湯線を利用している。
- ・意見、提案、質問をそれぞれ1点ずつさせていただく。
- ・まず意見としては、今回の説明会を聞く中で、運転手、利用者がともに減少して、どうにもならなくなり運賃をあげるというように聞こえた。
- ・結局利用者を増やすという提案がなかったと感じた。
- ・バスの運転手がいないうちで利用が増えたとそれはそれで困ると思う。
- ・しかし、利用者が増加すれば収益も上がるため、利用者を増やす施策は検討いただきたい。
- ・上田市は観光資源があるため、インバウンドなどに力を入れることが必要ではないか。
- ・真田線や菅平高原線の収益率が30%程度ということに驚いた。
- ・菅平高原という観光資源にインバウンド客がバスを利用して行かないということが残念だと思う。
- ・市全体として、他課も巻き込みながら利用者を増やすような取組をしていただきたい。
- ・提案としては、TicketQRのプレミアム率を20%にするとの話があったが、5,000円券のみでなく、3,000円券も対象としていただきたい。
- ・質問としては、別所線の本数を増便したという話があったが、増加させた理由がわからなかった。
- ・別所線の増便についてのみ回答いただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・別所線については、コロナ禍の中で利用者数が減少しており、本数も減らしたという経過がある。
- ・現在は利用者も徐々に戻ってきており、もう一押し利用者数を回復させたいという上田電鉄の思いから、まずは5年間増便を行うということで今回の取組を始めている。
- ・5年間の増便で5万人の利用者増加を目標としており、それが達成できれば引き続き増便後の便数での運行を行う予定である。

●参加者

- ・隣の席にいた方が、先ほどお子さんの部活の送迎で退席された。
- ・運転手不足で非常に大変だと思うが、20時台の便を復活していただけると、高校生の子を持つ親は非常にありがたい。
- ・丸子から上田へ向かう便は比較的充実しているため、丸子修学館高校の生徒はよいが、上田から丸子に帰ってくる学生は非常に困っている。

- ・運転手不足についても長い年月をかけて解決していただきたい。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・先ほど市から説明があった通り、バス通学を行う高校生と意見交換会を実施し、その際に 20 時台の便復活というご意見をいただいた。
- ・今の時点で確実に増やすと確約することはできないが、何とか 20 時台の便を出せるよう調整と協議を行っており、引き続き運転手を増やす努力もしている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・昨年 3 月に丸子まちづくり会議の主催で路線バスの減便に伴う意見交換会を開催した。
- ・その際に、高校生の保護者からバスの運賃を上げてでも増便してほしいという切実な声をいただいた。
- ・意見交換会には白鳥取締役本部長にも同席いただき、いただいたご意見が今回の検討につながっていると感じている。
- ・引き続き 20 時台のバス復活に向け、千曲バスと協議をしていきたい。

●参加者

- ・東信観光バスを普段利用している。
- ・昼間の大屋駅行きのバスに乗車すると鉄道との接続が悪いため、改善をお願いしたい。
- ・免許を返納すると当然路線バスのお世話になることになる。
- ・しかし、車に乗れなくなった後の生活について考えている方はほとんどいない。
- ・体が元気なうちから路線バスを利用する癖をつけるといったキャンペーンを市が積極的に行い、普段から路線バスを大切にしていくということが重要だと思っている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・昼間のダイヤについては検討させていただく。
- ・路線バスの利用を呼び掛けるということは非常に大切な視点だと考えている。
- ・このような取組はいわゆるモビリティマネジメントといい、なるべく路線バスを使うという方向に皆さまの意識を変えていくということを指す。
- ・今回、計画の中には特段入れてないが、小さいころからバスに親しむという取組も重要だと思っており、昨年度から保育園や地域でのバスの乗り方教室の実施等、地道だが実施している。
- ・今後も引き続き続けていきたい。

●参加者

- ・先ほど 20 時台の運行復活に関する話があったが、わざわざここに来て発言しなければならないということは、ほかに意見表明をする場がなかったということではないか。
- ・気軽に交通に関して、この時間のバスがないと困るといったことを書き込むような場所があれば、意見を言いやすくなるのではないか。
- ・カスハラも減るのではないかと思う。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・ご意見としてお聞きする。